

エゾノギシギシ、ワラビに対する除草剤アシュラムの使用量試験

大滝典雄・那須利八

(熊本県畜産試験場)

OOTAKI, N. and NASU, R.

Control of Braken and Broad Leaved Leaf by Asulam.

阿蘇地域における牧草地はエゾノギシギシの侵入が多く、牧養力減退の要因となっている。

ワラビについては、野草地における優占度が高く近年ワラビ採食に起因するとされる牛の汎骨ずい癆の発生がみられる。

そこで低毒性で、エゾノギシギシ、ワラビを選択的殺草効果のあるとされる、アシュラム(37%含有)の使用量、使用時期等について検討した。

試験方法

エゾノギシギシの侵入の多い混播牧草地と、エゾノギシギシ古採密生地について、5月17日アシュラム500ccと1,000ccを、10a当り水200ℓ(植物の茎葉が十分漏れる程度)に溶らし如露にて散布した。

ワラビについては、ワラビの優占度の高い自然草地に、アシュラム1,000ccと1,500ccを上記方法により、梅雨前6月1日と梅雨後7月30日にそれぞれ実施した。

試験結果及び考察

A. エゾノギシギシ

1. 枯死経過

処理後1ヵ月で、未展開葉の外縁より淡黄化が始まり、クロロシス現象を示し、日数経過とともに黄白色化が進み、3ヵ月後には、ほとんど枯死状態を示した。

牧草については、一時葉縁が淡黄緑化したが、処理後4ヵ月頃正常化した。

第1表 エゾノギシギシ枯死率

処	理	生育本数 (100m ²)	処理後 生育本数	枯死率
牧草内 粗生地	アシュラム 500cc	260本	4本	99%
	" 1,000cc	459 "	5 "	99 "
古株 密生地	" 1,000cc	125 "	5 "	98 "

註：1区50m²2区制、処理 46、5、17
処理薬品量は製品量、調査 46、10

第1表のように、使用量、処理区間の差は認められず、98~99%と高い枯死率をみた。

B. ワラビ

1. 枯死経過

処理後10日目になると、ワラビの葉縁より緑褐色化し、30日目頃には褐色化が拡大して、60日目頃には茎葉とも殆んど褐色化する。90日目頃になると、葉は巻き込み、健全葉は認められなかった。なお、使用量の差は認めなかった。

第2表 ワラビ枯死率

処	理	生育本数 (30m ²)	処理後 生育本数	枯死率
46. 6. 1 処 理	アシュラム 1,000cc	142本	4本	97%
	" 1,500cc	143 "	5 "	97 "
46. 7. 30 処 理	" 1,000cc	146 "	12 "	92 "
	" 1,500cc	157 "	5 "	97 "

註：1区10m²3区制、処理量は製品量
調査は処理1年後の47、6

以上の結果より、処理量、処理時期の差はみられず、いずれも、92%以上の殺草効果を示し、他の野草に被害は認められなかった。

まとめ

以上のように、牧草、野草に対する被害は認められず、ワラビ、エゾノギシギシに対する。選択的殺草効果が明らかとなった。使用量はエゾノギシギシについては、製品量で500~1,000ccできれば500ccで1回処理後、残存株を再度処理することが望ましい。使用時期については、結実期(8月下旬1個体平均4,500粒程度)以前に処理することが必要である。

ワラビについては、葉の展開期の5~8月に、製品量で1,000~1,500cc程度を必要と認められる。